

5. 公開授業指導案

<地理的分野>

社会科(地理的分野)学習指導案

期 日 平成18年11月22日(水)

学 級 1年6組(35名)

指導者 京都市立藤森中学校教諭 松島 功一

1. 単元名

「都道府県を調べる」

2. 単元設定の理由

(1) 教材観・指導観

現行の中学校学習指導要領(平成10年12月)解説-社会-では、2 内容の大項目 (2) 地域の規模に応じた調査の中項目「イ 都道府県」の内容の取り扱いとして、学校所在地を含む都道府県の中から、二つ又は三つの都道府県を取り上げ、それぞれ特色ある視点や方法で追究するようにすること、と述べている。地域的特色を追究しとらえる学習を通して、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせることをねらいとしており、このようなねらいをふまえ、今回行う京都府をテーマにした学習では、教科書の福岡県を例にした「県内の地域のちがいを調べる」の視点から考えることにした。しかし、それは単なる切り口であってどの都道府県を調べても教科書にある愛知県の視点のように農業や工業はどうか、また大阪府のように他地域との結びつきはどうかという視点は都道府県的特色を調べる中で学習することは必然的に行われる。

今回、この視点から見る事にした理由は、京都府は南北に細長く、地域によって気候や産業に特徴がある点と、生徒達が住む身近な地域の規模があまりにも大きいということである。京都府は人口260万人を越え、京都市だけでも約150万人の政令指定都市である。これは他の都道府県の人口と比べても28位に入り、身近な地域である伏見区だけでも各都道府県庁所在地の人口に相当する規模である。生徒達の行動範囲としてもごく近くに限られており、京都市内ですらほとんど知らないと考える。従って、伏見区の産業の特徴、そして伏見区を含む京都市としての特徴、さらに近隣の南部市街地域を含めた「南部地域」としての特徴を捉える、というような段階を踏んだ学習形態にしたほうが、通常都道府県学習のように身近な地域から突然都道府県全体を捉えるよりも自然であると考えた。そして、他の二つの地域「丹後半島を形成する北部地域」「丹波山地と山地を源に桂川水系、由良川水系により開かれた中部地域」の産業と比較し、今後の京都の課題やどのように発展していくべきかなども考察させたいと考える。

(2) 研究主題とのかかわり

今、私たちは毎日の生活において衣食住、交通手段や環境・衛生面など当たり前のように不自由することなく暮らすことが出来ている。暑ければ冷房があり、近くのお店に行けば食料から日用品まで揃ったり、道端にゴミを捨てても知らない間にきれいにされていたり、今の自分を取りまいていない不自由のない環境が当たり前すぎて、その一つひとつの事象にあまりにも無関心であり、そこにおける自己との関わりなど全くないに等しい状況といえるのではないだろうか。現代の豊かな生活の裏には、人々が智慧を捻出して苦勞を積み重ねてきた営みがあるということを実感して行動している生徒がどれだけいるだろうかと思う。この自分が暮らしていく街や社会全体を、どう住み良くしそこにどう参画していくのかを考えさせられるのが社会科の特性であると考え。生徒には是非、将来的にも自分がこの社会で生活をし、更にはこの社会の運営に主体的に関わる立場になることを考え、社会

科の授業の中で基礎的な知識や思考力を身につけ、あらゆる生活場面で疑問や更なる発展、環境との関係などの将来像を抱き、生涯にわたって自己との直接的、間接的な関わりを見出すようになって欲しいと考えている。

今回、都道府県の学習を行うが、京都府の場合はまだしも、他府県や諸外国を調べる際に、全く知らない地域の学習をしても自分がそこに行ったことがあるわけでも行くことになったわけでもなく、なかなかイメージがわからないし覚えるのもおもしろくないという生徒も多いのではないかと。教科書に載っているから学習しているのでは生徒が関心を持たず、嫌々の詰め込み学習になりかねない。これまでの授業で多く見られた「教師が捉えた地域的特色を生徒が覚えるだけ。」という指導方法が「地理は何してるのかわからんし嫌い。」という印象を与えることにつながっていくのだと考える。このような指導方法から脱却し、生徒自らがこの学習に進んで取り組むようにしたい。この單元における研究主題とのかかわりについて、まず「学び方を学ぶ」という点については、学習する都道府県の位置と特色を自分で調べてつかむということであり、そのための情報を収集し、その因果関係や、他の場所とのつながりや比較、課題や将来像を捉えたりという地理的見方・考え方を身につけさせたいと考える。「学び方を学ぶ」という点で大切なことは都道府県の特徴を調べる際に、農業・工業ではこの調べ方をすればどの都道府県にも当てはまるのだということを知り取らせることであると考える。そこに重点を置いて進めたい。京都府の学習は都道府県学習の最初であるので、データは教師が用意しておき、読みとらせる作業に重点を置き、二つ目、三つ目の都道府県学習になるにつれて自分の力で調べられるようになってほしいと考えている。次にサブテーマである、「～学習事項と自己との関わりを捉えながら学習する。～」ということに関しては、京都府に住んでいるとはいえ、京都府全域の話になるとどこか遠い場所で関係のない話に捉えがちだと思われるので、北部や中部については、身近な食材や有名な観光地などを基に関心を持たせたいと展開していきたいと考える。南部についてはまず自分たちの住んでいる身近な伏見周辺の様子から南部地域の特徴を捉えることで学習内容と自己との関わりを深めさせたい。今回は、学習の前段として伏見に関心を持たせるため、夏休みに「伏見の産業や伝統あるものについて人々の生活との関連も含めて調べる」という課題を設定しており、前章の身近な地域で学習する内容なども踏まえながら、南部のおおまかな特色を身近に捉えさせたい。

(3) 生徒の実態

京都市に生活していながら市内の各行政区、ましてや自分の住んでいる伏見区の位置関係すら理解出来ない生徒もいる。京都府の北部（丹後地域など）や最南部地域などについてはなおさら知っているとはいえないだろう。地理に対して苦手意識を持っている生徒も多いと思われる。その原因は様々かもしれないが、大きく二つあると考えている。その一つは教師が教科書通りの知識を注入しているだけであり生徒自身が何でこの勉強をしているのか目標がはっきりと分からなかったり、テスト前に何を勉強していいのかわからないという声も未だによくあるところである。もう一つの原因は地理的な感覚が不足しているところである。これは地図を見ながらドライブに連れて行ってもらう経験によって大きく変わってくるのではないかと考えているが、その経験も不十分なようである。例えば地図上の東西南北でみる都道府県の位置が理解できていても、自分が実際にその場に立って北を向き、どの方向に進むと東京方面に行くのか理解出来ない生徒も多くいる。従って都道府県学習の前に行く身近な地域の学習において、地形図などを利用し、位置や方向など基本的な内容をしっかりと身に付けてほしいと考えている。また、身近な地域や都道府県の特徴を調べるには様々な統計資料が必要である。1年生なので進度上、統計資料としては第1編の第2章「世界の地域の分け方」で教科書および地図帳の巻末資料を調べた程度であるが、なかなか調べられない生徒も少なくない。京都府の特徴をつかむためにも様々な資料を取捨選択するなかで適切に選択し活用できるような力を付けさせたいと考えている。

3. 単元の評価規準

社会的事象への関心 ・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
都道府県に対する関心を高め、その調査に意欲的に取り組み、都道府県規模の地域的特色をとらえようとしている。	都道府県の地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に追究するとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。	都道府県に関する地図や統計その他の資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、都道府県の地域的特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。	都道府県の地理的特色とともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し、それらの知識を身につけている。

4. 単元の指導計画と評価計画

時	ねらい	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1	・都道府県規模の調査には、どのような視点で取り組めばよいかを理解する。	・調べ方を考えよう。県を調べる四つの視点。	・都道府県規模の地域調査に対して関心や意欲が高まっている。			
2	・地図や統計資料をもとに、京都府全体の自然のようすを捉える。	京都府の概要 ・京都府の位置や地勢、気候。三つの地域区分	・京都府の地域的特色に関心を高め、それを調べることに意欲を示している。			・京都府や京都市の位置、地形や気候のようすを理解している。
3	・人口について調べる。	・市町村別人口と過疎化が進む市町村について。	・京都府の人口を知り、各市町村ごとの人口を着色する。			
4 5	・調べ学習に向けて三つの地域の農業について盛んなものを予測してみながら、調べ学習に入る。 ・京都府の三つの地域ごとの農業のようすについて調べ、各地域の特色をつかむ。	まず、農業について調べる。三つの地域の農業の特色を予想し、実際にどうなのか資料を読みとり各地域の農業の特色をつかむ。また、伏見区としてはどうか。全国と比較して京都府としてどうなのかも知る。		・地形などから単純に各地域どんな農業や産業が盛んなのか予想してみる。	・京都府の三つの地域の農業の特色を資料から読み取りまとめている。	
本時 6	・伏見を中心に南部の工業のようすから、他地	・伏見周辺を中心にみた南部地域の様子と三つの地域	・統計についてさらに興味を持ち、情報機器を	・京都府の交通網や、人口動態、地形な	・産業統計の読みとりを通して、伏見を	・京都府の三つの地域の産業について読

域との比較をすることで、南部地域の特色を捉える。	の比較。	通して統計の細部にまで追究しようとする。	どを含め、三つの地域の特色から京都府としての全体像をつかむことによって、自分なりに今後の京都の発展に向けての課題を考察している。	始めとする南部地域の産業の特色や、またそれぞれの地域の特色をまとめることができる。	みとった事をさらにその背景にせまり、交通網や雇用などの観点から現状を捉えて理解している。
・南部の工業の発達理由を交通網や人口、他都市との結びつきなどから考え、今後の京都府としての課題を考える。	・南部の工業が盛んな理由を、自分が工場を建てる立場で考える。府内の各地域の今後の発展に向けての課題。				

5. 本時の展開

段階	学習活動	教師の支援・配慮事項	評価規準	評価方法
導入	<p>・京都府の三つの地域の産業の特色について前時までの復習を行う。</p> <p>・本時は工業について調べていくことを伝える。</p>	<p>・南部が野菜中心であり、中でも多い伏見の農家数や、全国と比較しても京都は野菜の割合が高い事を思い出させ、工業はどうか、本時につなげる。</p>		
展開	<p>・工業の統計資料を配布し製造品出荷額について各市町村でそれぞれ四百億円を越えている部門について赤印を入れ、南部の工業が最も盛んであることを確認する。</p> <p>・それぞれの地域の工業の特色をつかむ。</p> <p>①北部「丹後ちりめん」 ②中部「窯業、土石」 ③南部は伏見の「飲料・たばこ・飼料」を基に、京都市および南部地域としての特色をつかむ。</p> <p>・南部地域で出荷額の多い業種について、実際にどんな会社があるのかインターネットで調べてみる。</p>	<p>・たくさんのデータが載っている資料を読み取るので混乱しないように、期間指導で資料の見方をアドバイスする。</p> <p>・北部、中部については小規模＝マイナス思考に陥らないようにし、南部については、伏見区の出荷額1位の業種に着目し、その業種が京都市及び南部地域の出荷額としてもトップになっていることを伝え、身近な伏見区に関心を持たせる。</p> <p>・京都市で額の多い、中京区の精密機械、右京区の電子部品、宇治市のゲームソフトについて振り分けて調</p>	<p>・産業統計の読みとりを通して、伏見を始めとする南部地域の産業の特色や、またそれぞれの地域の特色をまとめることができる。(技能・表現)</p> <p>・統計についてさらに興味を持ち、情報機器を通して統計の細部にまで追究しようとする。(関心・意欲)</p>	<p>・作業内容 記入内容</p> <p>・発表、記入 内容</p>

	<p>・南部の工業が盛んな理由を考える。</p> <p>発問：「もし自分が工場を建てるならどんな条件の場所に建てるか。」</p> <p>①広く平坦な敷地は？</p> <p>②人が多いor少ない所？</p> <p>③原料や製品の輸送は？</p>	<p>べさせる。</p> <p>・発問後、京都府の交通網のようすを示し、人口が多いところに交通網が発達していること、労働力が豊富であること、交通網の発達による他都市とのつながりなどから南部が盛んな理由を理解させる。</p>	<p>・京都府の三つの地域の産業について読みとった事をさらにその背景にせまり、交通網や雇用などの観点から現状を捉えて理解している。(知識・理解)</p>	<p>・発表、記入内容</p>
<p>まとめ</p>	<p>・今後の発展に向けて、京都府全体としての課題を探る。</p>	<p>各地域の産業のようすや交通網・人口が流出している地域のようすなどから今後の京都府の発展に向けての課題を探らせる。</p>	<p>・京都府の交通網や人口動態、地形などを含め、三つの地域の特色から京都府としての全体像をつかむことによって、自分なりに今後の京都の発展に向けての課題を考察している。(思考)</p>	<p>・発表、記入内容</p>

【北部地域】		第1位		第2位		第3位	
製造品名	出荷額(億)	製造品名	出荷額(億)	製造品名	出荷額(億)		
京丹後市 一般機械	135	食料品	97	繊維	84		
与野町 繊維	73	食料品	4	衣服	3		
高津市 衣服	63	食料品	27	繊維	6		
伊根町 食料品	X	衣服	X	飼料・たばこ・飲料	X		
【中部地域】		飲料・たばこ・飼料		輸送用機械			
舞鶴市 窯業・土石	74	化学	330	精密機械	305		
福知山市 電気機械	45	金属製品	183	一般機械	292		
綾部市 一般機械	266	電気機械	174	金属製品	161		
亀岡市 一般機械	334	木材・木製品	30	印刷	142		
南丹市 食料品	354	衣服	21	窯業・土石	17		
京丹波町 食料品	128				12		
【南部地域】		精密機械 <th colspan="2">印刷 </th>		印刷			
京都市 飲料・たばこ・飼料	4,799	精密機械	2,253	印刷	2,084		
北区 精密機械	89	繊維	81	衣服	32		
上京区 繊維	183	食料品	80	衣服	45		
左京区 食料品	93	繊維	48	電気機械	25		
中京区 精密機械	227	印刷	87	一般機械	120		
東山区 化学	93	食料品	19	窯業・土石	17		
山科区 金属製品	145	食料品	144	電気機械	82		
下京区 印刷	134	食料品	69	家具・装備品	47		
南区 非鉄金属	925	金属製品	144	精密機械	18		
右京区 電子部品・デバイス	973	輸送用機械	113	印刷	556		
西京区 食料品	77	金属製品	19	繊維	17		
伏見区 飲料・たばこ・飼料	4,789	一般機械	613	食料品	441		
宇治市 ゲームソフト等	1,899	食料品	419	電子部品・デバイス	477		
城陽市 食料品	159	非鉄金属	112	飲料・たばこ・飼料	69		
向日市 パルプ・紙	227	化学	57	プラスチック製品	38		
長岡京市 電気機械	1067	一般機械	440	化学	236		
八幡市 一般機械	302	食料品	261	家具・装備品	118		
京田辺市 食料品	424	一般機械	244	パルプ・紙	239		
山城町 飲料・たばこ・飼料	109	金属製品	19	窯業・土石	16		
末津町 プラスチック製品	14	一般機械	8	印刷	1		
加茂町 パルプ・紙	14	プラスチック	X	繊維	X		
笠置町 電気機械	X	衣服	X	ゴム製品	X		
和歌山町 飲料・たばこ・飼料	X	化学	X	電気機械	X		
精華町 電気機械	5	一般機械	X	食料品	X		
南丹波町 飲料・たばこ・飼料	X	化学	X	その他	X		
大山崎町 電気機械	824	輸送用機械	X	プラスチック製品	X		
久御山町 一般機械	577	食料品	363	金属製品	256		
井手町 パルプ・紙	42	金属製品	31	飲料・たばこ・飼料	15		
宇治原町 一般機械	171	輸送用機械	49	パルプ・紙	46		

南部としての製造品出荷額2位まで
1位
飲料・たばこ・飼料

京都府の製造品出荷額2位まで
1位
飲料・たばこ・飼料

<歴史的分野>

社会科（歴史的分野）学習指導案

期 日 平成18年11月22日（水）

学 級 1年 組（40名）

指導者 京都市立西京高校附属中学校教諭 河合 祥太

1. 単元名 古代国家の展開

2. 単元設定の理由

（1）教材観

後期からの歴史学習が始まり、約1か月。歴史の学習が本格していく中で、大陸文化の影響が薄れ、独自の文化が形成されていく過程のあらましを、イラスト資料から考えていく。覚える社会科から考える社会科への方策を模索する中で、本時では、自ら調べ、考え、その考えをグループで相談し、発表する形式をとる。また他のグループの発表もしっかりと聞いて、比較していく等の活動を通じ、「話すこと・聞くこと」＝コミュニケーション能力の育成をはかり、同時に社会科嫌いの生徒に対しても、社会的事象への興味・関心を高めていくことを目的とする教材である。そして、京都という歴史の舞台に住んでいるという利点を最大限に活かし、身近に歴史に関する様々な遺跡や建造物があることを再確認し、より「歴史」に関しての興味・関心を持たせると同時に、「京都人」としての自覚と誇りを持って生活していくためのきっかけにもしていきたい。

（2）指導観

「暗記教科」「知識偏重の社会科」から生徒が主体的に考え、活動する社会科へ、生徒が興味・関心を持ち積極的に学習する社会科へとの変容が主張されて久しくなる。調べる・考える・まとめる・発表する等の活動を手探りで模索しつつ、他校での実践などを参考にいろいろな方法を試しているのが現状である。

「生徒の実態」にも書いているような子供たちを前に、何とか新たな指導方法を試みる事ができないかと考え、工夫を重ねてきた。この教材は開校以来、歴史的分野で使用し、1・2期生とも授業では活発な意見の交流がり、生徒もかなり意欲的に取り組み、自ら多くのことを関心を持って調べようになった。

自分なりに解答を考え、考えをまとめ、班としての意見にまとめ、発表する。他の班の発表にも耳を傾け、考える力、話し合う力、発表する力をつけ、さらに社会的事象の一面的な見方だけでなく、多面的・多角的な見方・考え方の育成につなげていきたい。

また「歴史都市京都」に住んでいるという利点を活用し、ほとんどの時代に関連する文化財などが身近にあるという恵まれている点や、それらが大切に保存されてきている点、地元のすばらしさについても目を向けさせたい。

開校3年目でまだまだ指導方法等研究が十分には進んでいないため、さまざまなご意見をいただければと思っている。

（3）研究主題とのかかわり

「学び方を学ぶ社会科学学習」というメインテーマで歴史的分野の授業の改革に取り組んだ。歴史学習の中で、生徒自らが考え、解答を探し、さらにそれを班で相談して、まとめていくという過程を経験することから、他の単元や他の分野でも同様に自ら学ぶことができるのではないかと考えた。またサブテーマである「社会的事象を自己との関わりで捉える授業の試み」についても、平安時代の貴族の生活を身近な生活面から考えていくこと、平安京のおかれた京都が生徒の生活の舞台となっていて、生活圏の中に国風文化を見いだすことができることから、生徒にとっては遠い過去に起こった、自分の生活と無関係の事象ではないと思わせることができると考えている。

（4）生徒の実態

平成16年度に、洛北高校附属中学校と並んで、京都で最初に開設された公立の中高一貫校である本校は、今年度で3学年の生徒がそろうことになった。作文・製作と面接による選考を突破してきた生徒たちで、学習に対する興味関心もとても高く、何事にも前向きに取り組む生徒が多い。学習内容にも積極的に関わり、思考し、疑問を抱く生徒が多く、それは毎時間の「学習の記録」に積極的に記入している内容からも読みとれる。小学校の社会科との比較で、内容を深く掘り下げていくような授業に、一層興味を持っている生徒の存在も感じ取れる。一方、社会科は暗記教科との認識が強く、苦手意識を払拭できない生徒もある程度存在する。今までの授業でも多くの生徒が活発に意見を発表し、またグループの作業も積極的に活動しようとする生徒の姿が見られたが、一層多くの生徒が興味・関心を持って学習に取り組み、思考力を高められるような工夫をしていきたい。

3. 単元のねらい

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断	資料活用の 技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらましや文化などに関する関心を高め、意欲的に追求し、文化遺産を尊重しようとする。大昔の日本のようすをきっかけに、人類の進化の過程に関心をもち、学習意欲を持っている。	国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらましや文化などから課題を見いだし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。	国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらましや文化などに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追求した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらましや文化の特色などを、我が国の歴史とかかわる東アジアの歴史を背景に理解し、その知識を身につけている。

4. 単元の指導計画

時	ねらい	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1	・中央集権国家としての律令国家の政治のしくみを調べるとともに、律令のもとでの人々の租税負担など、くらしのようすを通して、律令政治を理解する。	奈良の都と律令制下のくらし ・平城京 ・律令制のもとでのくらし	・律令制とそこでの人々の生活に関心をもっている。	・律令国家のしくみと農民の負担を多面的多角的に考察している。	・墾田永年私財法が出された理由を説明することができる。	・律令政治の特色について理解している。
2	・この時代の文化が仏教を中心とした国際性の豊かなものだったことに気づく。 ・「記紀」がどのような意図で編集されたのかを理解する。	国際色豊かな文化 ・飛鳥文化 ・天平文化 ・万葉集と歴史書の編集	・仏教を中心とした国際文化に興味と関心をもっている。		・資料から飛鳥文化と天平文化の特徴を見出すことができる。	・東アジアを中心とした国際的な要素をもった飛鳥文化や天平文化の歴史的背景を理解し、その知識を身につけている。
3	・京都に都が移された理由をはじめ平安京の特徴を考えるとともに、今日の京都市街との位置関係を調べる。 ・摂関政治の特色と当時の	京都の都と摂関政治 ・平安京 ・摂関政治と国司	・平安京ができたころから国家のしくみが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたこ	・都を京都に移した理由について考えることができる。	・今日の京都市街と平安京の範囲を具体的に比較して説明することができる。	

	ようすを考察する。		とに対する関心を高め、意欲的に追究している。		できる。
4	・地方と都で武士団が成長してきたようすを朝廷の力と関連させながら考察する。	武士の登場 ・武士のおこり ・東北地方の発展	・武士の登場の背景について関心をもっている。	・武士のおこりと役割について多面的多角的に考察している。	・源氏と平氏についての基本的な知識を身につけている。
5	・奈良時代の仏教との違いを調べる。 ・国風文化が現れてきた背景を考察するとともに、そのおもな事象を理解する。	文化の日本化 ・平安時代の仏教 ・国風文化	・文化の国風化が進んだことに対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとしている。	・資料から今までの文化との違いを見いだすことができる。	・国風文化に関わる主な事象に関する知識を身につけている。
6	・貴族の生活から国風文化の特徴を考える。 ・歴史の舞台としての京都の地域性を理解する。	課題学習 〔考える歴史〕 国風文化 ～貴族の生活～ 〔本時〕	・自分の考えや班の考えをまとめて発表しようとしている。	・資料から積極的に国風文化の特徴を調べようとしている。	

5. 本時の展開

段階	学習活動	指導者の支援・配慮事項	評価規準 Aの状況	評価方法
導入	1, 宿題の確認 2, 前時の復習 ・平安時代の文化の特色	・机間巡視, 押印 ・未記入や未完成の部分について助言を与える。 ・発問	・時代にふさわしい 彩色を丁寧に施している。 関	作業内容 ワークシート回収
展開	3, 家で調べてきたことをもとに班で相談する。 班としての意見・考えをまとめる 4, 班の代表者が白板に記入する。 5, 班としての考えや意見を代表者が発表する。 6, 質問や異なる考えを持つ班がないか確認する。	・班ごとの話し合い体形をとらせる。 ・班全員が話し合いに参加できるよう助言する。 ・各班に発表する設問を指示する。 ・班としてのまとめをワークシートに記入させる。 ・白板に記入するよう指示する。 ・考えの根拠も含めて発表させる。 ・他の班の発表や正解をワークシートに記入させる。	・自分の調べてきたことや考えを述べ、他人の意見をしっかりと聞くことができる。 ・自分や班の考えを自分の言葉で発表できる。 関 ・自分と異なる考えにも耳を傾けたり、質問することができる。 ・ワークシートの設問に記入ができる。 資	観察・ 机間巡視 観察 記入内容 ワークシート回収
まとめ	7, 本時を振り返る。 8, 「学習の記録」を書く。	・授業のポイントをまとめる。 ・発表について講評する。 ・次時までの宿題を指示。	・貴族の生活のようすから平安時代の人々のようすに関心をもって考えることができる。 関 思	記入内容 学習の記録回収

※参考図書「調べる力・考える力を鍛えるワーク」 有田和正 明治図書

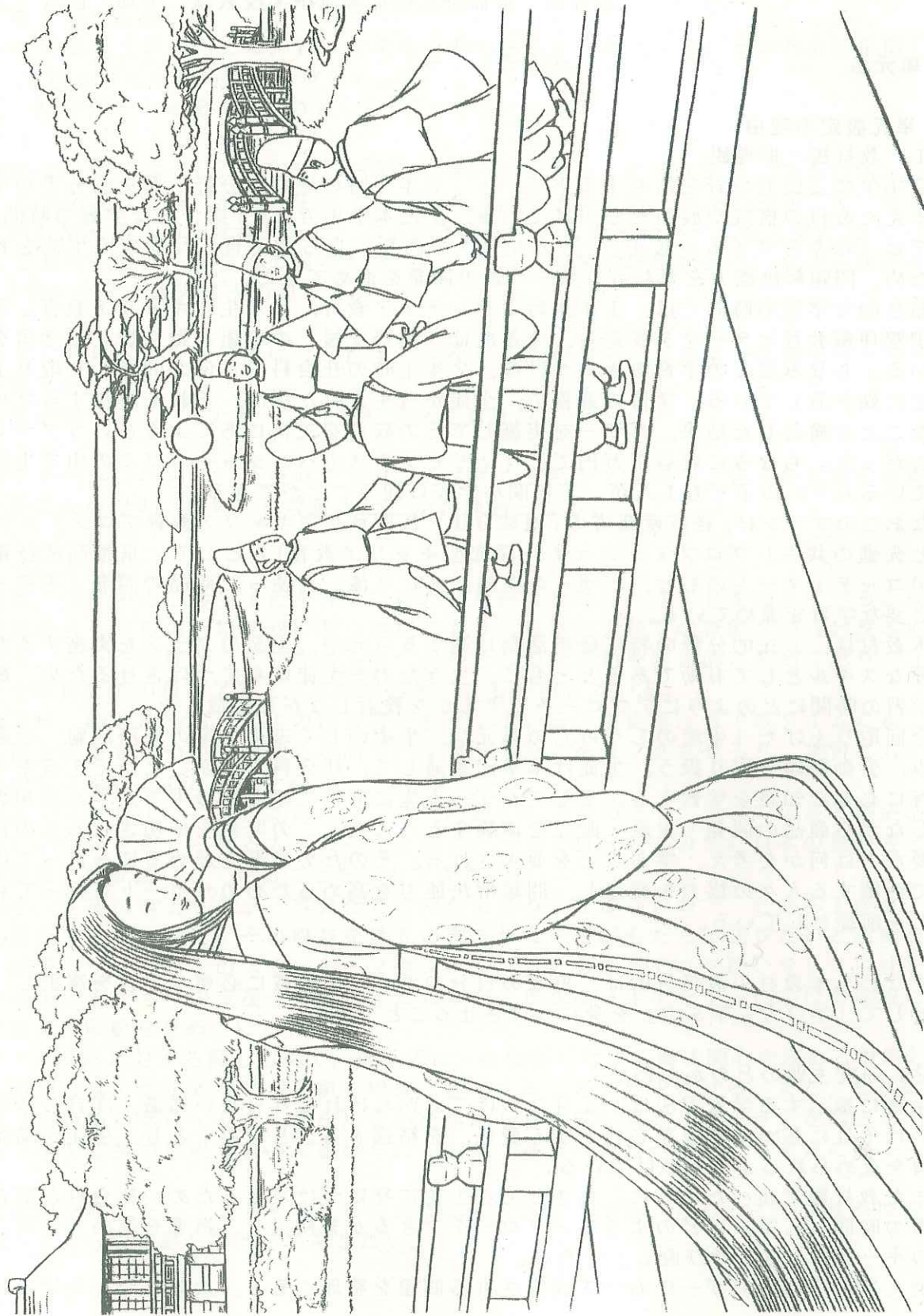
貴族の生活

1年 組 番氏名

- (1) この女の人が着ている着物を何といいますか。なぜ、このような着物を着たのでしょうか？
- (2) 女の方は、どうして右手に扇をもって顔をかくしているのでしょうか？
- (3) 当時、美人の条件は3つありました。それはどんなことだと思いますか？
- (4) 貴族たちが庭でおこなっているのは何でしょう？
- (5) (4) が今でも行われていて、現在もあるスポーツの神様として人気のある神社はどこでしょう？
- (6) (美しい着物を着て、大きな家に住んでいた上流貴族は、何人くらいいたと思いますか？
- (7) 貴族たちの寿命はどれくらいだったでしょう？ また、おもな死因は何だと思いますか？
- (8) 貴族たちは、病気は何が原因だと思っていたと思いますか？またどうやって病気を治そうとしたでしょう？
- (9) 悪霊や怨霊を操ることができる人何と呼ばれる人ですか？その中で有名なものは？
- (10) (9) の人物の屋敷があった場所で、その人物をまつているのはどこでしょう？
- (11) (西京高校の近くで、当時雨乞いの行事が行われたのはどこでしょう？
- (12) 時、都はどこにあり、何という都でしたか？ また、どうしてここに都を移したのですか？
- (13) この絵のような貴族の屋敷のつくりを何といいますか？また同じようなつくりで現在も残っている建物にどのようなものがありますか？
- (14) この時代、最も栄え権力をもった貴族は、何氏ですか？またどんな方法で、どんな地位につきましたか？
- (15) この時代の貴族の家にトイレはあったでしょう？ もしなければ、どうしたでしょう？
- (16) この時代の文化は前の時代までの文化（飛鳥文化・天平文化）どこが大きく変わったでしょう？

貴族の生活

1年 組 番氏名



す
ら
で
調
像
の
な
だ
は
想
ま
は
よ
う
。
当
資
ま
は
し
よ
う
。
を
ぐ
じ
、
着
色
し
よ
う
。

< 公民的分野 >

社会科（公民的分野）学習指導案

期 日 平成18年11月22日（水）第2限
学 級 3年3組 （計31名）
指導者 京都市立京都御池中学校教諭 上畑 直久

1. 単元名 「生産のしくみ」

2. 単元設定の理由

（1）教材観・指導観

3年生の公民的分野を指導する上で、1・2年生時の地理的分野・歴史的分野の学習をふまえた教材の構成や展開を心がけている。また本学年では、「総合的な学習の時間」（本校では「けやきタイム＝KT」）とのリンクを図り、自ら考え自ら行動する生徒を育成するため、問題解決能力を育むカリキュラムの開発を進めてきた。

総合的な学習の時間では、1年生時ボランティア教育、2年生時キャリア教育、3年生時国際理解教育とテーマを設定し、今年度は「国際支援」の取組を軸に据えて学習を進めている。ちなみにこの学習のきっかけは、2年生時の社会科で「南北問題」を取り上げたことに端を発している。学習の過程で、生徒から生まれた疑問、それを解決するために必要なことを検討した結果、バザーを実施してその収益を支援にあてようというプランができあがった。ちなみに収益1万円で、フィリピンのスカベンジャー（ゴミの山で生計を立てている人々）の子ども1人が、1年間小学校に通うことができる。

なおこのプランは、経済産業省の『地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト（「伝統と先進の共生」プロフェッショナル探究型キャリア教育）』として、京都高度技術研究所のコーディネートのもと、バザーの実施、特に『漆』を使った商品の開発・生産・販売に必要な学習を進めている。

本教材は、公民的分野の特に経済活動に関する単元が、上記のプランを実施するために必要なスキルとして有効であるとともに、生きた力を生徒に身につけさせるため、総合的な学習の時間にどのようにアプローチできるかを検討しながら編成した。

今回取り上げた「生産のしくみ」の単元は、生産のしくみや企業の経済活動、金融のしくみ、労働問題を取り扱う。生徒は本単元を通して、社会科で学ぶことができるキャリア教育に必要な知識を学習する。そしてバザー実施に向けての取組の中で、学んだ知識を活用しながら商品の開発・生産・販売を体験する。また、この取組を成功させるため自分に必要な力は何かを考え、学ぶことを要求される。そのため学習を進めるにあたっては、地域で活躍する人々の協力を要請し、問題解決能力を高めるためのサポートを行ってもらうことを前提としている。

すなわち本教材の最終目的は、将来の自分のキャリア形成に必要な学習を選択し、社会科として「学び方を学ぶ力」を身につけさせることである。

（2）研究主題のとのかわり

生徒に提示する学習方法は、①身につけておかなければならない知識、②自らの分析あるいはそれに基づく見解を必要とする資料、を精選することを第一とし、生徒が効率よく学習を進められるよう心がけている。

また教材観で述べたように、生きた力を生徒に身につけさせるため、社会科が総合的な学習の時間（KT）にどのようにアプローチできるかを検討し、指導を進めてきた。そこでのキーワードは「学び直し」である。

例えば、今回のバザーにおいて設定される問題を整理すると、次の2つが上げられる。

〈1〉 バザーの収益を有意義に使うにあたり、使う目的と意義を検討する。

ex. 国際支援を行うにあたり、支援先の問題状況の調査と問題解決のための方策を検討する。

→社会科での単元「人口からみた日本の特色」「資源・産業からみた日本の特色」「結びつきからみた日本の特色」【2年】

〈2〉 目的のためのバザーを成功させるため、発生する問題とそれを解決するために必要な方策を検討する。

ex. 収益を上げるために、資本を集め、製品を生産し販売する。そのために整備しなければならない問題を解決する。

→社会科での単元「生産のしくみ」【3年】

総合的な学習では、〈2〉であげた問題を解決するため、必要な仮説（事業計画）の作成と、その検証（商品の開発・生産・販売）を行ってきた。特に商品の開発では、新しく開発されたMR漆（高機能漆）を用い、その特性を活かしたものの作りに取り組んだ。

そこで本単元では、社会科の観点から、これまでの取組の評価を行う。仮説の検証をふまえ、「学び直す」観点は次の通りである。

① 新しく開発されたMR漆は、これまでの漆とどこが違い、どのような特性やメリットがあるか。

② 企業がMR漆といった新しい技術を開発する目的は何か。

これらの内容について、社会科で学習したスキルを活かしながら、自らの知識を再構築し、いかに次の学習（取組）へ発展させるかが課題となる。

（3）生徒の実態

本校は、市内中心部の少子化を背景に行われた統合を経て、4年目を迎えている。校区は、京都の古くからの伝統を受け継ぐ地域であり、日本三大祭りの祇園祭が行われる地域でもある。また今年度から、公立の小中一貫校としての活動を実質的に始めており、3年生は、その初めての最高学年として学校活動の中心を担っている。

指導者は、昨年度から本学年の社会科を担当している。生徒は、リアルタイムに起こっている社会的事象についての関心が高く、学習と事象とをリンクさせると、学習に対する興味をさらに深めることができる。

教材観でふれたように、生徒たちは「南北問題」の学習の中で、世界で広がる経済格差と、貧しい生活を強いられる人々の存在を知り、一方で自分たちの住む日本の豊かさと、多くの資源を無駄遣いしていることを学んできた。

すると、生徒の有志6名が“自分たちに何かできることはないか？”と立ち上がり、空き缶を集めてお金に換え、その収益を世界の恵まれない子どもたちに送りたいと活動を始めた。結果、フィリピンのスモーカーマウンテン（ゴミの山）でゴミ拾いをして生計を立てている子どもたちへの支援を行うことになった。現在は3年生を中心に学校や地域に呼びかけながら取組を進めている。

一方で、進路に対する関心も高く、指導者は、社会科に対する興味関心を深める取組と、進路に必要な学力の定着を図る取組を明確に提示することを要求される。また、校区の2小学校（御所南小学校・高倉小学校）との全体的な9年間一貫カリキュラムを編成しているため、小中連携の取組も数多く進められており、地域の教育への関心も非常に高まっている。

進路選択を控えた今、必要とされる知識の定着を図りながら、並行して、生徒が問題意識を持って自ら取り組む学習を展開したい。

3. 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の 技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
企業の経済活動や職業に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動について考えようとしている。	社会における企業の役割と社会的責任、社会生活における職業の意義と役割および雇用と労働条件について、多面的・多角的に考察している。また、企業の経済活動のあり方について様々な立場から公正に判断している。	企業の経済活動に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	生産のしくみのあらまし、金融の動き、職業の意義や役割および職業を取りまく課題について理解し、その知識を身につけている。

4. 単元の指導計画と評価計画

時	ねらい (この時間のねらい)	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動に必要な要素を理解する。 生産活動を続けるためには技術革新が必要なことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動とそのしくみ さまざまな生産活動 生産要素 	<ul style="list-style-type: none"> 生産活動とそのしくみに関心を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産者が常に競争にさらされ、よりよい商品開発を進めている背景を多角的に考察している。 		<ul style="list-style-type: none"> 生産の4つの要素を名をあげることができる
2	<ul style="list-style-type: none"> 企業の分類分けを通じて、私企業の代表である株式会社のしくみやはたらきを理解する。 日本の企業のかかえる問題点を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業のしくみ 企業 株式会社 日本の企業の問題点 	<ul style="list-style-type: none"> 日本企業のかかえる問題点に関心を持っている。 		<ul style="list-style-type: none"> 資料から、株式会社が出資金を集めやすく、大規模になりやすいことを説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業の種類を理解している。 株式会社のしくみを理解している。
3	<ul style="list-style-type: none"> 資本主義経済では、自由競争が基盤であり、時には集中や独占の問題が起こることも理解する。 中小企業の役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の日本の企業① 企業の競争 独占の問題 中小企業 	<ul style="list-style-type: none"> 企業の競争のしくみに関心を持っている。 中小企業の役割に関心を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の立場に立って、自由競争の長所と短所を考えることができる。 中小企業の役割や 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から日本の企業には多くの中小企業が存在し、活躍していることを読み取り、意見をまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業の現状を理解している。
4	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業の役 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の日本 	<ul style="list-style-type: none"> 技術革新 			

	割についての理解を深める。	の企業② ・中小企業 【本時】	がなぜ必要なのかについて関心を持っている。	問題点について考えることができる。	
5	・金融のはたらきと役割を理解する。 ・日本銀行の役割について理解する。	○企業と家計をつなぐ金融 ・金融のしくみ ・日本銀行	・身近な具体例を元に金融機関について関心を高めようとしている。		・日本銀行の3つのはたらきを理解している。
6	・日本の金融の現状と動きを理解する。 ・為替相場のしくみを理解する。	○変化する日本の金融 ・変化する金融 ・円高と円安	・為替相場のしくみと我々の生活に与える影響について関心を持っている。	・円高や円安が貿易に与える影響について考えることができる。	・資料を活用して、日本の金融の現状について読み取ることができる。
7 8	・働くことの意味を国民の権利や義務と関連させて考える。 ・雇用をめぐる今日的な問題について考えるとともに、国が果たす役割について理解する。	○働く意味と雇用の問題 ・なぜ働くのか ・失業 ・変わる雇用の問題 ○今日の職場の問題 ・多様化する労働条件 ・女性と労働 ・労働組合	・働くことの意味と、現在の雇用状況について関心を持っている。	・資料から雇用形態が大きく変化していることを読み取っている。	・勤労者の権利と、雇用をめぐる法整備の具体的な内容を理解している。

5. 本時の展開

段階	学習活動	教師の支援・配慮事項 (※C評価になりそうな者への支援や配慮)	評価規準 Bの状況	評価方法
導入	1. パソコンをセッティングする。 2. 佐藤喜代松商店の実績について説明する。	・机間支援を行う。 ・ワークシートに記入させる。 ・発問①「競争に勝ち残る企業に必要な要素とは？～なぜ佐藤喜代松商店は成功しているか？～」		
展開 1	3. 発問に対し、各自予想を立てる。 4. 予想を班で順に発表する。(他の発表者の予	・各班に発表する設問を指示する。	・資料を読み取り、自らの考えを表すことができる。	観察 記入内容

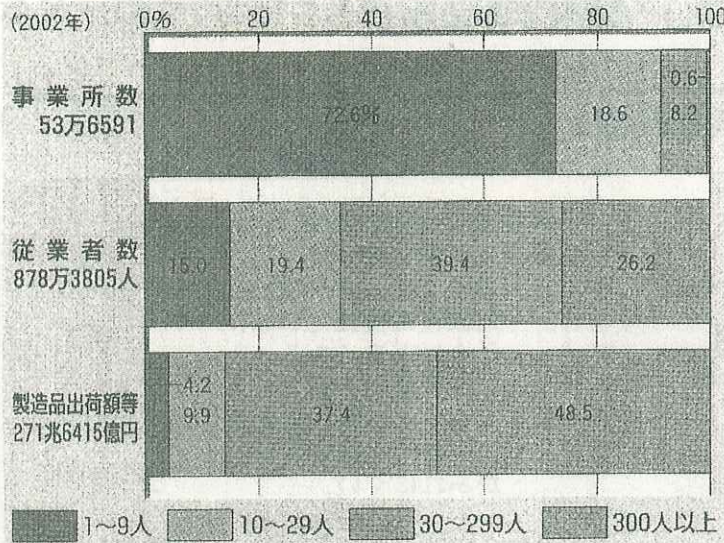
<p>想も記入。)</p> <p>5.インターネットなどを利用し、佐藤喜代松商店の事業を調べ、成功した理由を探す。(自分たちが『漆』の商品を開発、販売したことをふり返りながら)</p> <p>4.班としての意見、理由(根拠)をまとめる。</p> <p>5.班の代表者が白板に記入する。</p> <p>6.班としての考えや意見を代表者が発表する。</p> <p>7.質問やさらなる意見を持つ班がないかを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット画面につなぎ、検索「佐藤喜代松商店」と入力させる。 ・検索結果や図書資料をもとに意見や理由(根拠)を書き出させる。 ・班ごとの話し合い体形をとらせる。 ※机間支援を行い、討議に参加できるように助言を与える。 ・班としてのまとめをワークシートに記入させる。 ・白板に記入するよう指示する。 ・理由(具体的な事例)を含めて発表させる。 ・他の班の発表をワークシートに記入させる。 	<p>(技能・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の討議をふまえ、意見を整理し、書き表すことができる。 <p>(思考・判断)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問や意見を積極的に発言することができる。(関心) 	<p>観察</p> <p>記入内容 ワークシート確認</p>
<p>展開2</p> <p>8.「中小企業とは何か」を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「中小企業」についての板書内容をノートに記入させる。 ・資料を見て、ワークシートに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取り、自らの考えを表すことができる。 <p>(技能・表現)</p>	<p>記入内容 ワークシート確認</p>
<p>まとめ</p> <p>9.自分たちのバザーをふまえ、新たなビジネスを始めるとすればどんなものかを書き出す。(宿題)</p> <p>10.「佐藤喜代松商店」の社長さんからのメッセージビデオを見る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発問②「さらにどんな工夫をすればさらなる成功をつかむことができるか?~新たなビジネスチャンスをつかめ~」 ・ビデオを見ながら、アイデアを考え、宿題でまとめてくるよう指示する。 ※もし発問内容に対して答えにくい状況であれば、本時を振り返っての感想を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだことをふまえ、自らの考えを整理し、書き表すことができる。 ※①具体的な工夫について説明している。 ②そのために必要な学習は何かを具体的に示している。 <p>(思考・判断)</p>	<p>記入内容 ワークシート確認</p>

6. 準備物

教科書、ワークシート(ノート)、パソコン(2人で1台)、プロジェクター、ビデオデッキ、ホワイトボード2台

京都御池中学校社会科（経済）

教科書P120~125



← 中小企業とされる部分を
赤の斜線で示しなさい。

わが国では、現在
中小企業は、
全事業所数の
約(99)%を、
従業者数の
約(80)%を
占めています。

中小企業の地位(製造業)(2004年刊 工業統計表)

表1: 京都の漆器工芸品の事業所数・従事者数・出荷額

	平成3年度	平成14年度
事業所数(力所)	138	63
従事者数(人)	390	300
出荷額(万円)	167000	120000

全国の漆器工芸品の品目数・企業数・従事者数・年生産額[平成13年度]
品目数 40 企業数 3197
従事者数 13229人(1品目あたり330.7人 1企業あたり4.1人)
年生産額 832億7200万円

1品目あたり2081.8万円 1企業あたり2600万円 1従事者あたり630万円

②<<メモ>>佐藤喜代松商店

1921年創業。各種漆を精製販売するほかスクリーン製版資材も取り扱う。

従業員5人。資本金1350万円。

2005年の売上高は2億円。

全国平均と佐藤喜代松商店の売上高を比べてみよう!



ということは…
佐藤喜代松商店の

1従事者あたりの売上高は(4000万円)

発問①「競争に勝ち残る企業に必要な要素とは？～なぜ佐藤喜代松商店は成功しているか？～」調べてみよう！

検索キーワード『佐藤喜代松商店』	結果
予想	<p>佐藤喜代松商店で開発されたMR漆 →従来の漆に比べて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾くスピードが速い ・耐候性に優れている ・色合いが良くなる ・布や金属にも塗ることができる <p>例：Tシャツ、靴、自動車のボディなど 住宅の床・柱・建材 ・かぶれにくい</p> <p>これらの特性を活かした商品開発を行っている。 例：有名ブランドと提携した服のデザイン バイクレーシングチームと提携してヘルメットをデザイン ハイヒールのかかと部分に蒔絵 など</p> <p>商品開発を行うため、技術を上手く活用するための研修や、職人への普及を進める。</p>

成功するためには？～みんなの意見をまとめると～

高土表の西表が外資
16もろ丁かむる

No.6 次回：「経済とは？教P128-129」

発問②「さらにどんな工夫をすればさらなる成功をつかむことができるか？～新たなビジネスチャンスをつかめ～」考えてみよう！

◎次回の授業時に提出			No.6
3年	組	番	
氏名			
			思考判断/関心意欲